

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

| | | | |
|----------|---------------------|---------------|--------|
| 機関名 | 名古屋大学 | 整理番号 | B03 |
| プログラム名称 | グリーン自然科学国際教育研究プログラム | | |
| プログラム責任者 | 山本 一良 | プログラムコーディネーター | 阿波賀 邦夫 |

(評価決定後公表)

(総括評価)

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

本プログラムは学生と教員いずれにも比較的負担が少ない形でプログラムが運営されており、補助金による支援期間が終了した後にも無理のない形でプログラムが継続されることが期待できる。

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、コースワークを中心とする「融合学理プログラム」と、「リーダーシッププログラム」での研修や競争企画を適切に組み合わせることでプログラムが体系的に整備され、学生の自主性を重んじて「切磋琢磨」を促す競争環境がつけられている。また、e-ポートフォリオによって成績評価が可視化されていることなどは評価できる。

一方、産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性の観点からは、科学・技術の内部における広い視野のみならず、「グリーン」を実現・維持するための社会システムなどにまで視野を広げる「俯瞰力」を養い得るプログラムの提供という点では課題が残されている。また、研究室ローテーションについては単なる共同研究のための学生派遣とならぬよう、異分野理解を通じて俯瞰力を養うことに寄与し、本事業にふさわしいものとする手法を検討することも必要である。更に、「国際力」の強化に資するため、英語で議論する機会を現状よりも多く提供することが望まれる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、グローバルリーダーの育成という意味で参画する学生の多くが自らの目標としての「グローバルリーダー像」の明確なイメージを持ち得ていないという現状は問題であり、改善に向けた工夫が求められる。

優秀な学生の獲得については、広く参画を得て切磋琢磨させることが基本的方針であるが、他大学出身者を含めて優秀な学生を獲得するための継続的な努力が求められる。

本プログラムの現状は、グローバルリーダーを育てるというよりはグローバルリーダーになるべき学生を選抜するプログラムに留まっているのではないかとの懸念もある。学生の自主性を重んじつつも、このプログラムを通じてグローバルリーダーとなる「学生を育てる」という教員の意識の醸成とそれに応じたプログラムの改善が求められる。